

令和6年度

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば・巧緻性

活動 巧緻性

包む、かぶせる、結ぶの言葉と動作を理解する

環境をデザインする

●準備した物 バンダナ、紙皿、花紙

探究活動を実践する

●活動内容

結んでみる

●子どもたちの様子

風呂敷を見せた際には、「布!」「四角」「保育園あるある」「家にある」「ママが持っている」など、様々な発言があった。風呂敷で絵本などを包む様子には、子どもたちが静かに興味深く見入っていた。

「これからみんなもやってみよう」と伝え、「難しそう」と不安を口にする子や、挑戦を楽しみにしている子などの姿が見られた。包みが完成すると、一緒に友達と手に持ったり、頭の上に乗せたりしながら楽しんでいる様子が見られた。「難しそう」と発言した子は、「やっぱり難しかった」と感想をくれた。最後には、包んだものを広げ、風呂敷を丁寧に畳むことに集中して取り組む姿が見られた。

振り返りをふまえた気づき

初めての事に苦手意識がある子どもたちがいたが、がんばって挑戦していた。包むことを経験することにより、遊びが広がりそうな様子だった。

普段ままごとで遊んでいる時には、保育者に結んでもらっているもので、自分で結ぶというのは初めてだったと思う。説明を聞いて難しさを感じている子が多かった。意欲が持てるように側で声を掛け自分でやれるように援助したことで、出来るところは自分でやってみる事が出来た。布が大きく子どもたちが扱うのが難しかったので、包む前に細い布や紐などで結ぶことをしてから、布で包むという動作に発展させる方が分かりやすかったかもしれない。結ぶことが理解できていないからか、ほどく際もどこから取ればよいのか分からず、適当に布を引っ張り自分でほどくことが難しかった。教えてもらったところを引っ張るとほどくことができ、嬉しそうだった。これを機にままごとの際には一緒に結び方を教え、自分で出来る喜びを感じるとともに、挑戦する気持ちを育てていきたい。

活動スケジュール

3歳児クラス

日にち	令和7年1月10日
時間	30 分
参加人数	10 人

令和6年度

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動 かず

数量に親しむ体験をする

環境をデザインする

●準備した物 タイル

いちごのシール、プリント、クレヨン

探究活動を実践する

●活動内容

数を数えたり、並べたりする

●子どもたちの様子



1つから順番に並べはじめ、3列目に並べたときに「階段みたい」と言い、下に行くほど数が増えていることを見つけ、みんなで発見を共有する姿が見られました。カラータイルを15枚並べた状態を見て「きれい」「テレビみたい」などと表現があった。イチゴのシールを見せると、「ショートケーキ」や「アイスクリームな」などを嬉しそうに、これから描くものを積極的に発言する様子があった。それぞれがケーキやクリームの味をイメージし、メロン味やピーチ味など、想像力を広がっている様子が見られました。

振り返りをふまえた気づき

カラータイルを順番に並べる過程で、「階段みたい」「下に行くほど数が増えている」という発見は、視覚的に見て、物事のパターンや規則性を見つける機会になった。問いかけや励ましを通じて子どもたちの気づきをさらに引き出していきたい。

一人ずつ指定された色のタイルを15個選び、1から5まで階段状になるように並べていった。「数えるのはもう簡単だよ」と、何度か続いている活動である数遊びは得意になった様子だった。講師もホワイトボードで行っているので手本があるが、タイルの並べ方がわからなくなってしまう児が少々いたので、保育者が援助すると、並べ方を理解した。

線のお絵描きを行う。講師からイチゴのロールケーキを作ってみようと言われると喜ぶ子どもたち。中心のイチゴから始め、大きな丸になるようにぐるぐる描き進めていった。クレヨンの色を選ぶ際に、「オレンジ味にしようかな」「これはぶどう味だよ」と色を味に見立てて色選びを楽しんでいた。次に、最初に描いた線の間に見立てて二本目の線を描いた。最初に描いた線と重ならないように慎重に手を進めていた。完成すると講師に自慢げに見せていた。最後に自分の名前を自分で描くことも行った。お絵描きの際に、講師が説明途中であっても作業を始めてしまうなど、早とちりする姿が少々目立った。

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年1月10日
時間	30分
参加人数	10人

令和6年度

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動 かたち

立方体を作る体験をする

環境をデザインする

●準備した物 おりがみ

探究活動を実践する

●活動内容

同じ形に折ってみる

立方体に組み立ててみる



●子どもたちの様子

立方体を作るために必要な折り紙の枚数を「3枚」「4枚」と予想しながら数え、4枚目を数えた時点で「6枚」と気づきいた。同じ形を6枚折れば立方体が完成することを知ると、簡単そうだと感じて挑戦を楽しみにする子や、大変そうだと感じる子もいた。「難しい」と最初に発言していた子は、取り組みうちに他の子と同じペースで進められるようになり、一度折り方を覚えると、子どもたちは自分でどんどん折り進める姿が見られた。分からないところを子ども同士で教え合うなど、協力する様子もあった。最初に「丁寧に折ることが大切」と伝えたことで、子どもたちはしっかりと折り目をつけることを意識していた。組み立てでは、「自分でやりたい」という気持ち強い子は工夫しながら立方体を作っていた。子どもたちが意欲的に折り紙に取り組む様子がみられた。

振り返りをふまえた気づき

関心を持ち、難しいと思ったことでも挑戦することで、完成することができることを体験する機会になった。

折り紙を6枚使い立方体を作っていき。講師が話をしている際に、どんどん先に進もうとする姿が見られたが、わかってもし同じように進めるよう声を掛ける事で少しずつ最後まで話を聞き待つことが出来るようになった。講師は見本を見せながら回って歩く。保育者も一緒に困っている子へ声を掛け先に進めるような援助を行った。他児の見本をすぐに見ようとする子には、自分で考えながら、わからない時はホワイトボードを見ることや、講師に教えてほしい事を伝えられるよう声を掛けると少しずつ、他児を見るのではなく講師に声を掛けたり自分で考えられたり出来るようになった。6枚作れた子から立方体に組み立てるが思ったよりも難しく子どもたちだけで行う事は難しかった。保育者が一緒に手伝う事で子どもたちも教えてもらいながらも自分で組み立てようと挑戦をする姿が見られた。

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和7年1月10日
時間	45分
参加人数	10人